

Weekly Bulletin 2013-2014



RI会長
ロンD.バートン



ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を

静岡東ロータリークラブ

会長/高柳正雄 幹事/高田雅司

事務局/静岡市葵区追手町2-12 静岡安藤ハザマビル5F TEL054-254-5611

例会場/ホテルアソシア静岡 例会日/毎週 木曜日 12:30~13:30

<http://www.shizuoka-east-rc.jp>



会長
高柳正雄



第 2656 回例会

平成 26 年 2 月 25 日 天候 晴れ

《司 会》 岸好子 君(静岡北 RC)

《合 唱》 「君が代」
「奉仕の理想」

《ゲスト》 日本サッカー協会
特任理事 野田朱美 様

《参加クラブ会長紹介&出席報告》

参加クラブ会長

- ・静岡 RC 寺戸常剛 会長
- ・静岡東 RC 高柳正雄 会長
- ・静岡南 RC 荒巻郁雄 会長
- ・静岡日本平 RC 瀧島金吾 会長
- ・静岡西 RC 大橋章男 会長
- ・静岡中央 RC 鈴木延幸 会長
- ・静岡北 RC 戸崎博隆 会長

各クラブの出席数

・静岡 RC	59 名
・静岡東 RC	36 名
・静岡南 RC	23 名
・静岡日本平 RC	33 名
・静岡西 RC	25 名
・静岡中央 RC	33 名
・静岡北 RC	27 名
合 計	236 名

《ホストクラブ会長挨拶要旨》



皆様こんにちは。
ようこそおいで下さいました。
私は本年度7クラブ合同例会のホストクラブ静岡北ロータリークラブ会長の戸崎博隆でござ

います。どうぞよろしくお願ひいたします。

初対面の方も居られると思います。

私は、ロータリーの職業分類は「宗教」となります。宗旨は仏教の浄土宗という宗旨になります。葵区宮ヶ崎の報土寺という寺の住職をしております。浄土宗といいますと、旧静岡市では15ヶ寺ございます。静岡で多い宗派は曹洞宗と臨済宗です。それに比べたら少ないかもしれませんが、静岡に所縁のあるあの徳川家康公の菩提寺は岡崎市の大樹寺という寺で浄土宗でございます。その関係で私の所も家康公が駿府にいる時父広忠公の50回忌の法要をとり行った。と記録にあり。また、竹千代の時代人質として駿府にいる時住んでいたところが報土寺の境内であったという記録もあります。

一方、最近では、5年前の8月11日の静岡地震憶えていると思います。朝の5時7分の事でした。あの時家の寺の本堂の屋根瓦が大量に見事に落下して、それをNHKが撮影しついでに私もインタビューを受けその映像が朝の7時の全国放送に流れました。あの地震以来しばらくは、駅からタクシーに乗り、お寺の名前をつけなくとも、運転手さんが「ああ、あそこの瓦の落ちたお寺ね」だけで家に来られました。因みに今は屋根もきれいに銅板で葺き替えてございます。

さて少し長くなりましたが、先日のソチオリンピックも終わりました、この次はサッカーのブラジルワールドカップがござります。一方、地元静岡県のサッカーは最近今一つというところでしょうか。清水エスパルスは昨年も9位 ジュビロ磐田はJ2 降格、J3に藤枝マイエフシーが上がりましたが、高校サッカーに至っては正月の高校選手権は毎年1回戦負けであります。サッカー王国復活を願ひまして、先ほどからビデオを流していましたが、本日は日本サッカー協会の特任理事の野田朱美(のだ あけみ)様に「スポーツと地域振興」についてお話を頂きます。詳しいご紹介は後ほどいたしますので、どうぞごゆっくりお聞き下さい。以上で会長挨拶を終わります。ありがとうございました。

《来賓卓話》

「スポーツと地域振興」

野田朱美 様



私は小学5年でサッカーを始めました。当時女子はバレーが主流でサッカーをやるのは稀でした。中学入学と同時に読売ベレーザに入団し

当時最年少で日本代表に選出されました。当時の日本代表選手は、遠征費の半分が選手負担でした。グラウンドの準備や洗濯等も自分たちでやっているという環境でしたが、ただただサッカーができることが嬉しかったです。

中国で初めて女子のワールドカップ開催されたとき、アメリカが優勝しました。日本は予選全敗でしたが、次のスウェーデンW杯でブラジルに勝ち、ベスト8へ進出したことが女子サッカー日本代表の大きな一歩でした。アトランタ五輪では、女子サッカーが初めてオリンピックの正式競技になりました。以降、シドニー五輪を除いてすべてのオリンピックに日本代表は出場しています。

現役引退後、アメリカにゴルフ留学したとき、飛行機のチケット手配の仕方がわからなかったり、アメリカの文化の違いに戸惑ったりと、今まで自分がいかに世間知らずか思い知らされました。そのような中でも努力してアメリカ生活を満喫できるようになった経験が今に生きています。

39歳の時に日本サッカー協会の特任理事に就任し初めて組織というものを肌で感じました。私はスポーツ選手として自由に生きてきましたが、組織に入ることによって沢山の人たちが代表選手を支えてきてくれたことがわかりました。

なでしこジャパンがW杯で優勝する3年前に、女子の日本代表チーム強化担当に就任しました。女子サッカーの認知度向上のため、チームが世界一になるためにいろいろなことを考えました、特に力を入れたのが海外指定強化制度です。当時、日本やアジアの選手は欧米の選手に対して少なからずコンプレックスを抱いていました。海外の体格が大きい選手と渡り合えるように、文化の違う中でも堂々とプレーできるように女子選手を海外でプレーさせる重要性を何度も何度も説明して進めました。もともと技術力の高い日本選手は欧米に慣れることで実力をつけていきました。その例が、澤選手や宮間選手です。日本がW杯で優勝を決めた直後、宮間選手がアメリカの選手と座って話をしていたシーンこそが、自分が求めていたもので最も印象に残っています。

協会の仕事を進める中で、私は現場(監督)の経験がなかったため、日テレ・ベレーザの監督に就任しました。そこでも沢山のことを学びました。ベレーザにはプロ選手、社会人、学生と様々な選手がいました。当時、ヴェルディが経営破綻で存続が危ぶまれる中で監

督をし、チームは1つの家族のようなものだと感じました。その中で印象的な経験が2つあります。

岩淵選手が骨折したときに、試合に出さなかったときのことです。岩淵選手が「監督の言うことは絶対です。間違っていたとしても監督の言うことに従います。」と泣きながら話しました。監督の権限とその重要性を認識しました。

もう1つは、2012年カップ戦で優勝したことです。ベレーザには全てのカテゴリーの代表選手がいたため1年を通して全員が揃うことはほとんどありませんでした。ベンチに2人しかいないという状態で、やりきることを宣言した結果、INACに勝つことが出来ました。監督の自信が選手に伝わるということを実感した経験でした。

昨年秋、日本サッカー協会女子副委員長に就任しました。私の使命は分母の拡大です。今の女子サッカー人口は、男子の15万人に対し、4万5千人です。アメリカやドイツは20万人以上の競技人口があります。FIFAの統計では、女子サッカー競技者は世界サッカー人口の10%しかありません。国立競技場が満席にならない程度の競技者人口しかいないため、女子サッカーをもっと普及させなければなりません。サッカー協会が掲げる「強化」・「育成」・「指導者養成」が普及につながります。

JFA2005年宣言というものがあります。①2015年までに世界トップ10となること、②サッカーファミリー(選手、支援者等)が10万人になることです。男子のサッカー人口は増えてきましたが、フットサルと女子サッカーはまだまだ開拓の余地があります。その一端を担うのが私の使命です。普及活動の一環として3月2日(日)に藤枝総合運動公園でなでしこジャパンOG会のイベントを開催します。以前、神奈川の大和市で実施したことあり、多くのサッカー競技者やお子様たちに楽しんでいただきました。元日本代表の選手が藤枝に集結しますので是非子様やお孫様を連れてご参加ください。

アメリカの女子サッカーリーグはすべてプロチームですが、日本の女子サッカーチームには様々な形態があります。Jリーグチームのあるところ、民間で運営しているチーム、岡山湯郷ベルのように官民一体で運営しているチーム等があります。岡山湯郷ベルは人が少ない地域で選手の雇用をサポートしながら、地域の発展に貢献するよう努力しているチームです。その岡山湯郷ベルで8年間ヘッドコーチを務めた三輪和幸さんが今回、静岡に発足した女子チーム「アスレジーナ」の監督に就任しました。サッカー王国静岡の復活と地域の発展に貢献するチームになると思いますので是非応援してください。

イングランドのように日本でもサッカーが男女ともに根付ければと願っています。